

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2773500406		
法人名	有限会社 夢野家		
事業所名	グループホーム夢野家		
所在地	大阪府南河内郡千早赤阪村水分593番1		
自己評価作成日	平成 23年 5月 28日	評価結果市町村受理日	平成 23年 7月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2773500406&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2773500406&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 23年 6月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ADLの低下で歩行が不安定になられても、家の中では自由に動いていただき、事故に至ることの無いよう見守っています。</li> <li>・重度の方でも出来るだけトイレで排泄していただく支援を心掛けています。</li> <li>・民家改修型のため、障子や畳みなど、馴染みのある昔ながらの「靴を脱いだ暮らし」をができ、這いながら移動される方には、特に良さを発揮していただいています。</li> <li>・入居者6名の少人数ならではのフットワークの良さを活かし、映画や花の観賞など、外出や外食の機会を多くもつようとしています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>有限会社が運営する民家改修型のグループホームです。ホームはバス停から近く、国道に面しており車の便も良い場所にあります。大自然に恵まれた築40年を迎える古民家に6名の利用者がゆったりと暮らしています。ホームは運営責任者の生家でもあり、地域との連携はごく自然に行われ訪問者も多くあります。自家製の野菜が豊富に実り、米は近くの農家で栽培した地元米を買い入れるなど新鮮な食材を使った安全で美味しい食事を提供しています。また、びわ、スギナ、ヨモギなどをブレンドした香ばしいほうじ茶を日常的に味わえるようにしています。職員の定着率が良く、利用者との馴染みの関係が築かれており、利用者の意向を大切にされた支援をしています。利用者が自由にのびのびと暮らせるように配慮し、外出支援にも力を入れるなど、家族と連携しながらサービス向上に努めています。</p>
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「そのままのあなたでいい」、「老いる自由を楽しみましょう」をホームの理念として掲げ、地域に根ざした暮らしを大切にしています。職員にはミーティングを通じて理念を伝え、利用者には尊敬と共感を持って関わり、理念を実践に活かしています。	ホーム理念「そのままのあなたでいい」、「老いる自由を楽しみましょう」を大切にして、地域の中でその人らしい暮らしができるように支援しています。管理者は理念を玄関に掲げ、職員とともに理念の実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営者の生家であり、周囲の農家の方とは顔なじみの関係です。お米を購入したり、野菜をいただいたり普段から交流しています。	ホームは築後40年を迎える古民家を活用しており、運営責任者の生家でもあるため、以前からの地域とのつながりを活かしたホーム運営をしています。近所の農家から周辺の田んぼで収穫されたお米を1年分購入したり、野菜をもらったり、村の行事に参加したり、近所の人遊びに来られたり、地域とのつながりを活かした利用者支援をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には積極的に出向くようにしています。また、ホームに出入りしている地元の職人さん達とも交流が深く、認知症への理解も深まっているように感じます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では利用者やホームの取り組み状況、外部評価の結果報告について話し合い、サービス向上に活かしています。</p>	<p>運営推進会議は利用者家族、民生委員、村役場職員、村議会議員等の参加を得て年2回開催しています。委員からは、村民のホーム活用について、利用料金について、村役場の認知症サポートキャラバンについて、利用者の地域行事参加について等、ホーム運営についての活発な意見交換が行われています。ホームでは出された意見や情報をサービス向上に活かしています。</p>	<p>運営推進会議の運営要綱を定め、年6回の定期開催を行うことが求められます。ホームでは当面年2回以上の開催をめざしており、委員以外の村民にも参加してもらえるように取り組む予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には村職員が参加しています。日頃から様々なことで相談しており、よき理解者として多数のアドバイスをいただき、サービスの質の向上に努めています。</p>	<p>村役場担当者とは日頃から交流があり、ホーム運営についての相談をしたり、情報交換をしたりしています。また、運営推進会議の開催や定例化についてもアドバイスを受けています。外部評価結果については、その都度村役場に持参し、報告しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員対象に年1回身体拘束に関する勉強会を開いており、全ての職員が身体拘束をしないケアを行っています。日中は交通量の多い国道沿いの門扉以外は全て開錠しております。</p>	<p>重要事項説明書に「高齢者虐待防止法の遵守」及び「身体拘束のないケアの実践」を明記しています。全職員に身体拘束のないケアの実践について、研修を行い徹底しています。ホーム玄関を含むいくつかの出入り口はすべて開錠しています。また、出入り口の門扉2カ所にもカギはかけていない状況です。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止の講演会に積極的に参加するようにし、持ち帰って伝達講習を行い、周知徹底を図っています。普段から職員のストレス防止に気を配り、何でも相談できる雰囲気作りを心がけています。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前、成年後見制度を利用されていた方がおられ、管理者や職員が学ぶ機会を持ちました。職員が研修会に参加し、伝達講習も行いました。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書を提示しサービス内容をわかりやすく説明しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族と信頼関係を結ぶように職員全員で努め、何でも気軽に話していただけるような雰囲気作りを心がけています。出された意見、要望は全職員で検討し、反映させております。	家族から出された要望や意見はその都度記録に残して、実現するように取り組んでいます。希望される家族には毎回介護記録を見てもらい、希望や意見を聴取しています。また、運営推進会議で出された家族意見を大切にしてい、利用者支援に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は共に介護従業者でもあるので、普段から職員の意見や提案を聴く機会も多く、話し合いのもと、運営にも反映させています。	管理者や運営者は、日常的に職員の意見を聞き尊重しています。さらに、月1回の職員会議で意見交換を行い、ホーム運営について職員からの提案等を受けています。職員の定着率が高く、職員は向上心を持って就業しています。	ホームでは中堅以上の職員が初心を忘れず、向上心を持って働き続けられるように配慮しています。職員一人ひとりが1年に1回自己評価を行い、自分を見つめ直す機会を持てるように、外部研修への参加を勧めたり、新入職員との合同勉強会を行い、意見交換の場を設けるなどの企画をしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の自己評価の機会を設け、職員が向上心を持って働けるようにしています。また、それぞれの職員の個性や特技を理解し、やりがいを持って働けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤職員は認知症実践者研修を受講しています。他にも、それぞれの職員に適した外部研修の機会を作ったり、定期的に社内勉強会を開き、スキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとは合同での行事を多く設け、職員同士の交流を促し、サービスの振り返りと質の向上に役立てています。機会があればより多くの勉強会に参加し、同業者との交流を通じてサービスの向上を目指したい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は利用者との信頼関係の構築を最優先としています。利用者本人をそのまま受け止め、転居による不安を少しでも軽減できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯を家族から丁寧に伺い、入居することへの罪悪感を最小限にできるよう、意向や希望を伺っています。また、連絡を密にとることで共に利用者を支える関係づくりを築けるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に当ホームが満室で利用いただけない時や、当ホームの利用に該当されないと見極めた時には、必要な該当サービスや相談先を紹介させていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活そのままが職員の生活につながり、職員の気持ちはシビアに利用者に伝わるので、お互い助け合いの精神で生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変調時には家族に報告し、常に状況を共有するようにしています。共に入居者を支えあえる関係を継続させるため、対話を密にするよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族や友人が訪ねてきたときは、自宅のように居心地良く過ごしていただけるよう努めており、来訪は頻繁です。	ホームでは年賀状や暑中見舞い、手紙など、利用者が家族や友人に送信できるように取り組んでいます。また、ホームの電話を提供して家族や友人と希望される時に、いつでも話しができるように支援しています。友人や知人が訪ねて来られたら歓迎して、ゆっくり楽しく時間を過ごされるように配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は日中をほとんど居間で過ごし、職員や利用者同士との関わりを持たれています。食事中に横の方が食べにくそうな時にはさりげなくお皿を動かしてあげたり、ティッシュを渡してあげたりと、利用者同士の関わり合いが日常的に見られます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをさせていただいた利用者のご主人が想い出を辿って来所されお元気な顔を見せてくださったり、昨年の猛暑続きの折にはご機嫌伺いの電話を入れたり、これまでのつながりを大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動や家族から意向や以前の生活を伺い、利用者の思いを汲み取っています。また、本人の意向を伺うのが困難な場合はなるべく本人本位となるよう職員で話し合っています。	職員は本人の意向を大切に支援しています。食事、入浴、排泄など日常生活支援については、その日の気分や感情を察知して無理に勧めるのではなく、意向を尊重し気持ち良く過ごせるように配慮しています。希望や意向の把握が困難な場合には、表情や素振りを見て対応しています。時には夜勤の時間帯に個別にお茶を飲みながら、利用者の本音を聞くこともあります。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からこれまでの暮らしや生活環境について伺うようにしています。又、入居後にも利用者と家族との会話の中から把握できることもあり、職員間で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に合う過ごし方をさせていただこうと記録や引継ぎを基に、日々の心身状態を常に気に留め、後退しないよう、できるだけ普通の生活をしていただいています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にはミーティングで職員が話し合い、家族や利用者の意向を反映させて計画作成者が中心となって作成しています。また、介護計画に添ったケアを行うため毎日の生活記録やバイタルチェックを行っています。	計画作成担当者は事前に利用者や家族の意向を確認し、ミーティングで出された利用者の課題と合わせて目標を設定し、現状に添った介護計画書を作成しています。介護計画書は本人や家族に説明して了解を得ています。介護計画書は職員間で共有し、実施記録を基にモニタリングを行い、6～9か月を目途に見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録やバイタルチェック票を個別に記録しており、職員間で情報を共有しながらケアや介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添い、役所の手続きの代行、急変時に来訪された家族への食事提供など、利用者や家族の意向に添った支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社や民家の間の細い道に佇むお地蔵さんに手を合わせながら散歩していると、地域の歴史や人々の暮らしを垣間見ることが出来、豊かな自然と暖かい人情のある土地に住む喜びを感じ話合っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な往診を受けており、家族へは報告しています。又、緊急時にも素早い往診があります。職員は医師に信頼を寄せており、家族も安心されています。家族や利用者の希望で、他の医療機関に受診の必要があれば支援しています。	利用者や家族がかかりつけ医を自由に選択し、受診できるようにしています。家族の都合がつかない場合には、ホーム職員が付き添い受診支援をしています。希望があれば、協力医療機関から月1回の訪問診療を受けることができます。また、緊急時にも同医療機関から往診を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成者が看護師であるため、利用者の健康状態を継続的に把握しています。また、介護職員への指示、助言に繋げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は何度も様子を伺いに行き、医療機関とも話し合いを重ね、早期に退院できるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入居時に終末期に対する意向を伺い、実際に直面したときには再度、意向を確認しています。医師や家族と繰り返し話し合いの場を持ち、家族の要望に添えるようできる限りの協力をさせていただきます。	重要事項説明書に「ターミナル期の支援方針」を明記し、入居時に家族へ説明しています。ホームでは日頃から利用者や家族の意向を尊重し対応していますが、重度化した場合には再度意向の確認をしています。また突然、状態が変化した場合にも事前に確認していた終末期支援方針に添った対応をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて定期的に勉強会を開いて職員全員が応急手当や初期対応ができるよう訓練し、実践力を身に付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの避難訓練を実施し、適切なアドバイスを受けています。地震や水害などのシュミレーションを描き、敏速な行動が出来るよう職員間で話し合っています。	年に1回消防署立ち会いの災害時避難訓練を行っています。また、日常的に災害時の避難ルートを意識して、日頃は使わない出入り口を活用して外へ出る取り組みをしていますが、記録は残していない状況です。災害時に備えて水、米、野菜などの備蓄や携帯ガスコンロなどの準備もしています。	運営推進会議開催後、委員の参加を得て災害時の避難訓練を行い、課題を共有してはいかがでしょうか。運営推進会議で災害時の対策や課題について助言を受けたり、外部からの協力体制について話し合ったりすることで、取り組みの強化が期待されます。また、独自の避難訓練を行った場合にも写真や記録を残して、利用者・家族・職員等で共有し、次回に活かすことが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉遣い、プライバシーの保持には充分に気をつけるよう職員間で確認し合っています。また、個人情報や金銭記録は扉のある棚にて保管し、目に触れにくくしています。	利用者一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーに配慮した対応をしています。職員が定着し馴染みの存在になっても、言葉使いや態度について利用者への配慮を忘れないように職員間で注意し合っています。利用者の個人情報保護については職員の入職時に契約書を交わし、厳重に対応しています。	ホームでは、職員が定着していることで、言葉使いなどの対応が慣れ合いにならないように、さらに研修等に取り組む予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の利便性を押し付けるのではなく、自己決定の機会を多く持つようにしています。自己決定が困難な方には二者択一や、実際に物を見ていただくなど、選択しやすい支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、起床、就寝等、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っています。希望を訴えることが出来ない方にはその方本位となるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を二ヶ月に一度利用しています。利用者はおしゃれな方ばかりです。着こなしにだけ身だしなみを整え、毎日の衣装選びをいただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接の畑で取れた野菜の皮むきや豆の筋取りといった下ごしらえや、後片付け等、利用者と一緒に調理を行い、職員は同じ食事をいただきながら食事介助を行います。切干大根や梅干、味噌等の保存食も利用者と一緒につけています。	食材は自家製の野菜や生協の宅配便を活用しています。その日の調理を担当する職員は利用者に食べたい献立の希望を聞き、利用者とともに食材を準備することから調理を始めます。利用者には野菜の下ごしらえや後片付けなどの得意な部分で活躍してもらっています。職員も同じものを食べながら自家製の野菜の味などを吟味したり、利用者のおかずを食べやすいように細かくしたりして、ともに食事の時間を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は毎日記録しています。旬の自家製野菜中心の料理で、見た目も大切にしています。咀嚼、嚥下状況に応じた食事を提供し、食が進まない方には数回に分けるなど臨機応変に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを支援しています。特に、義歯の方は口臭が生じないように配慮しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートから一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレに誘導することで、失敗をなくす支援をしています。重度の方にもトイレを使用していたき、なるべく座位での排泄を促しています。	利用者一人ひとりの体調や排泄間隔を考慮した支援をしています。時にはトイレでの排泄を好まれない場合もありますが、その時の利用者の意向を尊重して自室で行うなど、無理のない排泄支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の自家製野菜中心の料理のため、入居当初は酷い便秘症の方も緩和傾向にあります。腹部マッサージを行ったり、便秘解消効果のある飲食物を勧めたりと、普段から便秘の予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後を入浴時間としています。重度の方は3日に一度体調を考慮しながら二人介助にて入浴されています。また、強い拒否の方には本人の希望とタイミングを合わせるよう努め、貴重なコミュニケーションの場として入浴を大切にしています。	入浴は毎日でも入れるように準備していますが、利用者は体調に合わせて週に2～3回の入浴をしています。季節に合わせて、菖蒲湯やゆず湯などを用意して楽しむこともあります。入浴を好まれない場合もあり、本人の意向を大切にしながらもタイミングを見て入浴を勧め、清潔が保てるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠や休息のパターンを把握しており、利用者に合わせて入床していただいています。夜間の睡眠不足の方には昼夜逆転にならない程度にお昼寝をしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者一人ひとりの服薬状況について把握し、詳細をいつでも確認できるようにしています。服薬変更時や症状の変化などについては引継ぎ書にて情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	廊下のモップがけ、洗濯畳み、食器拭き、テーブルの片付けなどそれぞれの得意分野を活かした役割を担っていただいています。ひざ掛けを編んだり、たまの晩酌を楽しみにされている方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調に配慮して歩行可能な方と車椅子を利用される方、それぞれコースを選んで散歩します。家族をお誘いしての昼食を兼ねた外出を楽しみにされております。	玄関を出て畑の周辺を散策したり、自家製の野菜の収穫を楽しんだり、車の行き交う表通りを下がって集落を越えた場所にあるお地藏さんまで出かけたりますこともあります。外出を好まれない場合もあり、天気の良い日には外に出て中庭で食事をしたりして、室内に閉じこもらない支援を心がけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている方はおられません。必要な時には支援を行いたいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ホームの電話は自由に使用でき、家族からの電話を楽しみにされている方もおられます。特に、年賀状は重度の方にも一文字でも書いていただけるよう支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に共用部分の整理、清掃を心がけ、不快の原因にならないよう努めています。また、四季折々の貼り絵などを製作し、単調になりがちな空間を季節あるものにしていきます。	周辺には山や畑、田んぼなどがあり、自然環境に恵まれています。表門、裏門、勝手口など出入り口が多く、また玄関や縁側、裏口など室内からの出入口も多いので、非常災害時に避難しやすい状況です。中央の畳の間にソファを置いて居間として活用し、食堂は台所と兼用にしています。少しの段差はありますが、利用者がつまずかないように工夫をしています。トイレ、洗面所、浴室はゆったりとして使いやすくなっています。毎日拭き掃除を行っており、清潔感のあるホームです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分のフロアや廊下など、あちこちに椅子を置き、思い思いの場所で過ごしていただけるよう工夫しています。仲のよい利用者同士が楽しくおしゃべりされている姿を日常的に見ることができます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が一番リラックスできる空間であるよう工夫しています。また、訪問された家族とゆったり寛いでいただけるよう空間を広く取るようにしています。	利用者の居室は和室にベッドを置いた落ち着いた部屋が設定されています。襖を開けると居間に通じる部屋もあり、風通しが良く居室から外の景色も見られます。室内には利用者の好みの家具が置かれ、ゆったりとした個性のある居室になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家改修のため利用者には馴染みのある生活空間だと思われます。自由に歩き廻ることができ、好きな場所で過ごしていただけるようにしています。		